The 37th Tokyo Motor Show
Passenger Cars & Motorcycles

No.26 東京モーターショーニュース

2003年11月5日発行

発行所　社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部
〒100-0004　東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル
Publisher : Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.
Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN
TEL 03-3211-8919　FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com
JAMA

東京モーターショーはこれまで比較的温暖な天候に恵まれたが、会場の幕張メッセ周辺の街路樹や、クリーンエネルギー車同乗試乗会が行われている幕張海浜公園内の木々の間に紅葉が目立ってきた。秋は確実に深まっている。ショー終盤になって、ネクタイ姿のビジネスマンが再び目立つようになり、展示ブース脇でメモをとる光景も多い。また、記録のための撮影モレをおさえるのであろう、カメラマンの姿も目立っている。東京モーターショーは今日、最終日を迎える。

自動車テクノロジーの進化を競う

「環境」「安全」そして「快適」・・・

部品

自動車テクノロジーの進化のカギを握る自動車部品。前回（第35回）に引き続き「環境対応」「安全技術」、それに「快適性能」の向上に貢献する新技術などの展示が目立つ。今回はそれぞれの分野での技術開発レベルをさらに飛躍的に進化させながら競っている。

4カ国政府・内外200社が出品

今回のモーターショーでは4カ国の政府および内外200社が出品。展示内容も充実しており、世界初の発表となるワールドプレミアの部品は49点、日本初の発表となるジャパンプレミアは26点に及ぶ。先端技術を競う“見本市”の場として大変な賑わいを見せている。

展示エリアは主に西ホールと北ホール。その他のホールにもカーオーディオやアクセサリーメーカーなどが展示コーナーを設けている。

西ホールにブースを構えるのはブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴム工業などのタイヤメーカーをはじめ、アメリカ、カナダ、ドイツ、スウェーデンの4カ国の政府、それに総合ホイールメーカーのトピー工業、新たな植物資源として注目される「ケナフ」を自動車部品として開発したアラコ、各種シートや金型設計の難波プレス工業など、自動車周辺部品の企業が多く出品している。

西ホールにはブリヂストンなどのタイヤメーカー、外国の政府機関などの展示ブースがある。下はアラコの「近未来シート体感コーナー」とドイツ政府ブース

北ホール 中央通路

インホイール・モーターの次世代システムを披露

ブリヂストンは自社のタイヤを装着した'03年のF1優勝マシン「フェラーリF2003-GA」をはじめ、レース用タイヤ、市販タイヤなどを展示。また、燃料電池車を含めた電気自動車用技術として有望視されていながら技術的に課題が多いとされている動力源のモーターを車輪に内蔵したインホイール・モーター駆動システムなども披露している。同社の渡邊恵夫社長はプレスブリーフィングの場で「今後も海外のモーターショーに積極的に出品する」と表明。ブランドイメージをさらに強化する構えだ。

西ホールでは政府出品コーナーも充実している。中でも見応えがあるのはカナダとドイツ。カナダ政府は北米自動車メーカー向けの部品産業が発達しており、ケベック州などを中心に日本への販路拡大を狙っている。東京モーターショーでもお馴染みのユニークなブースデザインのドイツ政府（VDA）はZFなどの巨大部品産業を率いての参加。アメリカ、スウェーデンの展示も技術内容が充実しており、巨大マーケットである日本などのアジア地域でのビジネスチャンスをうかがっている。

避けられない環境重視の開発体制

部品展示の多い北ホールは、曙ブレーキ工業、日本特殊陶業、共同出品の日本自動車部品工業会など様々な分野の部品メーカーなどが先端技術を競っている。北ホールの中央通路に広大な展示ブースを構えるアイシングループ（アイシン精機、アイシン高丘、アイシン化工、アイシン・エィ・ダブリュ、アイシン・エーアイ、アドヴィックスの6社）は、今回も取り扱い部品がひと目でわかるワイヤーフレームカーを展示。6速AT、オートメーテッドマニュアルトランスミッション（自動クラッチ式）やインテリジェントパーキングアシストなど数多くの先端技術の製品を公開。アイシン精機の和田明広会長は「今後は環境技術にさらに力を入れていく」と、環境重視の開発体制をアピールする。

北ホールにはエンジン部品をはじめ、電装、計器、照明、車体、内装および走行関係部品などの展示ブースがある

「駐車支援システム」の体験コーナーもお目見え

環境、安全、快適の取り組みは、二輪車ブース近くのデンソー、豊田自動織機をはじめ、ボッシュ、日立グループなど、多くのメーカーが看板に掲げている。デンソーは得意のディーゼル用コモンレールシステムをはじめ、東京都のディーゼル規制をクリアするディーゼル後処理システム、安全に関する製品など多彩な展示に来場者の関心を集めている。今年6月に社長に就任した深谷紘一氏は「安全性追求のためには妥協を許さない」と、自らの経営姿勢を明らかにした。また、豊田自動織機は、ミニカーを使った体験コーナーを設けて駐車支援システム（Hi－PAS）を紹介している。

ボッシュは近年、ヨーロッパでも装着が進みつつある横滑り防止システム（ESP）を中心に、新インジェクションシステムなど様々な提案を行った。トキコ、日立金属などの部品メーカーを擁する日立グループは、ハイブリッド車用関連システムや、次世代テレマティクスなどの利便性を高めた車載情報システム、電気モーターの性能を向上させる磁性体をはじめとする新素材、また軽量化を図るためのアルミ製サスペンション部品などを展示している。

アッセンブリーメーカーだけでなく、要素技術メーカーも環境性能向上のための重要な技術を展示。高性能ピストンのMAHLE（マーレ）、アート金属工業、新CVTベルトで業績を伸ばすLuK、ニードルベアリングのINAなど、多くの新技術が注目されている。

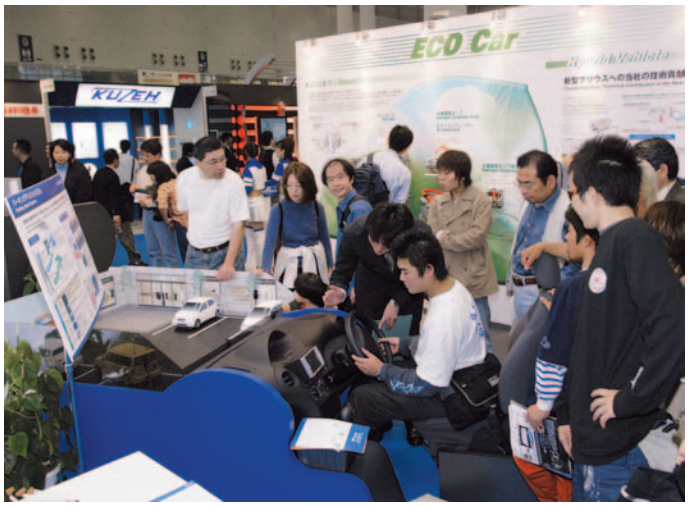
商品力アップに貢献する技術展示に注目

一方、自動車の商品力を上げるための技術展示も目立つ。自動車用メーターを手がけるカルソニックカンセイ、シーメンスVDOなどが新技術を用いたメーター類を出品。

カルソニックカンセイは多量の情報が飛び交うユビキタス社会において、運転者の状況に合わせた情報を選別し、重要度に合わせて表示距離を可変にして情報提示を行うメーターを展示している。

各ホールにある部品ブースは、工夫を凝らしたプレゼンテーションやイベント企画も多く、自動車業界の関係者ばかりでなく、自動車技術に関心のある一般来場者にとっても「十分に楽しむことができる」との評判だ。

お馴染みのアイシングループのワイヤーフレームカー



ミニカーで「駐車支援システム」を体験（豊田自動織機）

TOPICS “力強さ”と“哀調”の津軽三味線に大きな拍手

モーターショー会場で突然響きだした津軽三味線の音。奏するは地元・千葉の出身で、千葉で演奏活動を行う村松大氏、津軽三味線の第一人者・青森の長峰健一氏（友情出演）、それに縄文太鼓の創作・演奏者 青森県の宮崎龍美氏の3人。

場所は中央休憩広場。1人、2人がいつの間にか大きな輪になった。村松氏は「力強い津軽三味線を」、津軽三味線はもともと哀調を帯びたものという長峰氏は「哀調をお聞かせしたい」と。また宮崎氏は「和太鼓にない音色をぜひ聞いてもらいたい」。

曲は村松氏が「房総じょんがら」、長峰氏が「津軽のかまり（かおり）」、そして3人のセッションで「奥津軽組曲」。このあとフェスティバル・パーク特設ステージでも演奏、大きな拍手を浴びた。「津軽三味線と縄文太鼓のコラボレーション」と題したこの演奏会、地元千葉県のイメージ向上と物産、観光のPRを狙ったもの。

TOPICS 週末5,000～6,000配布 クリアファイル入り資料

中央エントランスホールに置かれている東京モーターショーの主催者日本自動車工業会のブース。パソコンでクイズを楽しんだり、棚から資料を持ち帰る人も。ブース前では自動車税やエアバッグの説明書などを入れたクリアファイルを配っているが、これが飛ぶようにさばける。週末でその数5,000～6,000というから凄い。

ブースの中にある小さな模型。2005年3月、名古屋で開かれる「愛・地球博」に建設予定のパビリオンだ。その名も「ワンダーホイール展・覧・車」。こちらはユニークなデザインで人目を引いている。

環のくらし

（11月4日開催）

シンポジウム

◆基調講演
大聖 泰弘氏（早稲田大学工学部機械工学科教授）
◆テーマ
脱温暖化社会に向けた自動車の新技術と利用のあり方
◆講師
杉山 智之氏（本田技術研究所主席研究員）
山口 耕二氏（日本電気エグゼクティブ・エキスパート）
黒笹 慈幾氏（小学館・情報誌編集局企画制作室長）
上田 万由子氏（エフエム東京アナウンサー）
清水 康弘氏（環境省地球環境局地球温暖化対策課長）

基調講演で大聖氏は「問題となっているCO_2削減には新技術の開発に加えてエコドライブなど車を使う側の環境に対する意識の向上も大切」と指摘した。エコドライブに関しては山口氏が「IT技術を活用してアイドリングや空ぶかしなど燃費に関する分析をすることで、CO_2の削減や経済効果を高めることができる」ことを紹介。杉山氏はメーカーの立場からCO_2削減の決め手は燃料電池と述べ「将来は車の燃料電池で家庭の電気を賄うことも夢ではない」と発言、会場の注目を集めた。元BE－PAL編集長の黒笹氏は「当時はエコドライブとは正反対の企画を立てていたが、これからはスローライフの時代だ」と提言。上田さんは“エコロジーミュージックキャンペーン”など番組を通して「リスナーともどもエコロジーを考えてきた」と、アナウンサーならではの体験談を語った。最後にハイブリッド車に乗っているという清水氏が「エコロジカルな車に乗る文化になるといい」と語り、環境省の環のくらしホームページにアクセスしてみて—と会場に呼びかけた。

大聖 泰弘氏

ITSクルマ新時代

（11月4日開催）

シンポジウム

◆特別講演
星野 一義氏（星野インパル チームオーナー）
◆パネルディスカッション
座長 関口 和一氏（日本経済新聞社編集局産業部編集委員兼論説委員）
講師 星野 一義氏（星野インパル チームオーナー）
小出 公平氏（ITS Japan 常務理事）
浅見 孝雄氏（日産自動車 電子技術本部IT開発部長）
小川 善美氏（インデックス代表取締役社長兼COO）

ITS（高度道路交通システム）への期待感と理解を広めるためのシンポジウムで、特別講演で星野氏が、40年にわたるレース経験やレーシングチーム運営などで得た実感を披露、「レースは自動車技術の進歩に貢献してきた。コンピュータ時代の中で、レースの充実、よりよいクルマ開発のためにがんばりたい」と述べた。

続いて、小出氏が日本のITSの現状と展望について解説するとともに、来年10月に名古屋で開催されるITS世界大会における「ITSスマートタウン計画」に沿って新しい町づくりを体験できる8つのツアー内容などを紹介、浅見氏は「クルマと道路と交通管制が一体となってはじめて安全で快適な自動車交通が実現できる」とし、そのためのアプローチ技術を解説。また、携帯電話サービスのコンテンツ開発の実績をもとに小川さんが、「新世代の携帯電話は、通信コストの低減やネットワークの拡大などが見込まれており、クルマの中でのサービスも今後、さらに充実する」との展望を紹介、関口氏の司会で出席講師によるディスカッションが行われた。

星野 一義氏

今日のイベント（予定）

★ シンポジウム
16:30～18:30 モータースポーツがあるライフスタイル
～みんなでサーキットへ行こう～
＜モータースポーツ大賞表彰式＞
フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

★ Bay FM
11:15～11:45 フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

★ フィエスタ・マリスコス
13:00～13:30
15:00～15:30
フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

★ クリーンエネルギー車同乗試乗会
10:30～16:30 環境体験ランド（幕張海浜公園）

来場者に聞く

イベントは合格 もっとPRを

アンゼンジャーショーの安全体操でステージ上にいる子どもを熱心にビデオ撮影していた地元千葉・検見川の澤田真己子さん「子ども共々楽しめました」。モーターショーには何度もきているそうだが、「こんなの初めての体験。なかなかいいですね」とまずは評価。

しかし「このイベントも来てみて初めてわかったの。パエリアも食べてみたかったし地元の主婦にキチンと伝わるようにイベントの告知に工夫を」とのご注文も。

11月4日の入場者数 **95,900人** ／ 入場者数合計 **1,339,300人**

「早く」「安く」の要望に応えつつ、
「深く」訴求するための最適手法。
それがオンデマンド印刷です。製品情報のほか、各種の事例などもご紹介。
DocuPlaza（ドキュプラザ） http://www.docu-plaza.com/

Color DocuTech 60
機材協力：富士ゼロックス株式会社
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。
eCOAT105
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX